

氏名： 徳井 淑子 (TOKUI Yoshiko)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 教授  
学位： 博士 (学術 2003)  
専門分野： 西洋服飾史、中世と近代を中心とするフランス文化史  
URL： <http://www.aesthe.ocha.ac.jp/fukshok%20history/>  
E-mail： [tokui.yoshiko@ocha.ac.jp](mailto:tokui.yoshiko@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

服飾／色彩／紋章／中世フランス  
fashion / colour / device / medieval France

#### ◆主要業績

総数 (2) 件

- ・「カラフルな聖堂とカラフルな衣服」AFT ジャーナル、vol.36,2008,p.1; 「夏の美しい緑と魔物の不気味な緑」AFT ジャーナル、vol.37,2008,p.1; 「勤労を示す男の黒服と貞淑を示す女の白いドレス」AFT ジャーナル、vol.38,2008,p.1.
- ・口頭発表「モードと博物学：中世ヨーロッパの異国趣味」日本家政学会服飾史・服飾美学部会研究成果公開講演会題4回「服飾から国際交流を考える」、於・学習院女子大学、2008年9月27日。
- ・口頭発表「中世仏文学における感覚と表現：14・15世紀フランスの色名、色調、色彩感情を中心に」日本中世英語英文学会第24回全国大会シンポジウム「中期英語の感覚表現に迫る」、於・大阪府立大学、2008年12月7日。
- ・L' expression des plis dans la litterature medievale:la chemise ridee dans les romans courtois des 12eme et 13eme siecles, Actes du Coloque des Ptychoseis, Peloponnesian Folklore Foundation, 2009,PP.100-05

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- |  |   |
|--|---|
| 1 紋章・文様の意想研究として、中世末期の「心」の文様の文学起源について考察。      | 1 Study of literary source of the motif "heart", a device in the late mediaeval France.                           |
| 2 『色彩の紋章』の書誌的調査。1528年版のテキスト校訂と注釈、および日本語訳の作成。 | 2 Bibliographical research of the "Blason des Couleurs", edition of the text in 1528 and translation to Japanese. |
| 3 ヨーロッパの服飾史および色彩文化史をジェンダーの視点で読み直す作業。         | 3 Gender Studies of Fashion and Color in Modern Europe.   |

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

服飾の歴史を通してヨーロッパの人々の感性を知り、それによって私たちの生活を客観的に分析する能力を養うことを目的として授業を行っている。

具体的には、服飾史の調査にはどのようなアプローチがあり、どのように資料を使えばよいのか、調査の方法と資料を解説しながら、西洋服飾の事例を紹介、合わせて服飾文化論を学ぶための基礎論を講義した。

またフランス中世服飾に関する論文の講読と、画像・文学資料の分析によって、服飾史と周辺的生活文化史に関する論文を作成するための基礎演習を行い、ヨーロッパの生活文化論に関する卒業論文へと繋げた。

Lecture and seminar on cultural and historical studies of clothes, especially through the literary and iconographic sources in order to clarify the sensibility of Europeans.

## ◆研究計画

中世末期のドウヴィーズは、紋章と近世以降のエンブレムの間に位置し、ヨーロッパ人の感情生活の一端をかいま見せてくれる。特に文様の意匠には、豊かな生活感情の表象として注目すべきものがあり、そこには個人の感情とともに文学的抒情性が重ねられている。このような文様の表現を通して、ヨーロッパ人の心性史を明らかにしたい。

## ◆メッセージ

服飾史研究は、あまりに身近な生活を対象とするために、なおざりにされてきましたが、それでもヨーロッパでは19世紀半ば以来の歴史があり、20世紀末に一種のブームを起こしたこともあります。ファッションは、文化史研究のたいへん面白い切り口ですから、この領域に多くの方が参加されるように願っています。